

授業形態	講義	科目名	応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	必選区分	Ⅰ：必修 Ⅱ・Ⅲ：選択
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	視覚化教材として図表を取り入れたスライドを用いて、教科書の文字情報をイメージ化できるようにした。イメージ化は理解力だけでなく、記憶の定着化も促すので積極的に取り入れている。				
取り組みの効果	教科書のみを用いた説明では、机上の教科書に視線を落とすため、学生の表情が確認しづらいが、スクリーン上にスライドを映すことで図表を見ているときの学生の表情を確認することができる。またその時の学生の反応に応じて説明の方向性を変えたり、比喩や症例などを取り入れることでより良い理解につなげている。				
今後の課題	スライドを用いるとスライド上の情報を説明することに終始し、ともすれば教員→学生の一方向になる。そのため、適宜質問を投げかけ、「あなたが管理栄養士(栄養士)だったらどうするか？」など教科書にない答えを考えさせている。互いに討論する時間の余裕が少ないので、後はそのような時間を増やしたい。				

授業形態	講義	科目名	公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ	必選区分	Ⅰ：必修 Ⅱ：選択
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>授業時間外の学習課題として、次の内容をシラバス中に明記した。</p> <p>『この科目の授業内容は、社会情勢と極めて密接な関係にある。常日頃から報道に接し、国際社会、日本社会、地域社会の動向をつかんでおくこと。その際、授業で教授した公衆衛生的な視点や分析法を適用させ、実際に文章にしてみるとよい』</p> <p>この学習方法を授業中に説明する際、「好きなテレビを見る」「好きな雑誌を読む」等、よりわかりやすい表現を用いた。</p>				
取り組みの効果	<p>毎回の授業時、マスコミで取り上げられている事例を紹介しながら講義すると、大きくならず学生が複数いる他、自ら「こんなことも報道されていた」と話してくれる学生が出るようになった。</p>				
今後の課題	<p>ねらいに合った反応を示す学生数がまだ少ないことから、多くの学生が取り組むように課題提出方法なども含めて検討する。</p>				

授業形態	講義	科目名	解剖生理学Ⅰ	必選区分	必修
開講学科・学年	大食1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>この科目に限らず、講義日程並びに講義資料については、事前にホームページ上から配信しており、講義までに各自ダウンロードし、印刷持参するように指示している。また、講義資料は重要な語句等を空欄としており、ホームページ上の印刷不可の資料を読みながら穴埋めする形式を取っており、予習して講義に出席するように指導している。</p> <p>講義では、講義資料内容の理解のため、板書しながら、説明する形式を取っており、すでに講義した内容と関連する事項については学生に適宜質問し、理解度を確認している。また、興味を持たせるために、時事ネタやお笑いネタ等を織り交ぜたり、日常的な事象との関連性について説明している。</p> <p>同時に開講している実習科目とも講義の内容と連携させ、相互に補完して理解を深められるように配慮している。</p>				
取り組みの効果	<p>学生は、興味をもって講義に参加しており、講義中に自由に質問をしたり、分かりにくい点については、再度説明を求めている。</p> <p>また、日常的に関連することや時事ネタ等についても興味をもっており、本来の講義内容だけでなく、それらの内容についても興味をもって講義に参加している。</p>				
今後の課題	<p>専門的な科目であり、数多くの専門用語を理解する必要があるため、予習復習が必要となる。事前の予習については、他の科目との兼ね合いから片付け仕事になっている傾向があり、効率的な予習復習方法の確立が必要である。本年度より初期演習に専門用語の修得を目指し、一問一答問題集を導入し、小テストを実施することにより、本科目だけでなく、管理栄養士専門科目全般に関しての予習復習とし、講義の理解度を深める取り組みを進めている。</p>				

授業形態	講義	科目名	調理学	必選区分	必修
開講学科・学年	大食1年		受講者数	約110名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	受講者が多いことから、パワーポイントを使用して授業をおこなっている。調理学の授業では調理操作の特徴を学ぶ中で調理器具名などがでてくるが、家庭で調理に携わる機会の少ない学生もいるため、できるだけ写真で見せるよう工夫している。また、実習と関連させることで理解を深める努力をしている。				
取り組みの効果	実際にスライドをみることで、分かりやすくなっていると思われるが、写真を加えることでスライド枚数が増え、授業の進行が早くなる傾向がある。				
今後の課題	今後はμ Camを利用し、事前に資料が見えるようにするなどして対応をしたいと考えている。				

授業形態	講義	科目名	公衆衛生学	必選区分	必修
開講学科・学年	大食1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	毎回授業の始めに小テストをする。				
取り組みの効果	復習することにより知識の蓄積が起きている。				
今後の課題					

授業形態	講義	科目名	公衆衛生学	必選区分	必修
開講学科・学年	大食1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	プロジェクターを用いた授業により、学生の近い位置まで移動し、顔を見ながら内容を伝達し、質問をし、やりとりをする。				
取り組みの効果	学生に近い位置で講義し、質問することにより、緊張感と親近感を持ち内容を記憶に植え付けることが出来る。				
今後の課題					

授業形態	講義	科目名	臨床栄養学	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	実際の職場映像を見せる。				
取り組みの効果	専門技術をもつ職業であることを認識することで、勉学の意欲が向上。国家試験対策への意欲も向上する。				
今後の課題					

授業形態	講義	科目名	臨床栄養学Ⅱ	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	事前に配付資料を get file として入手、print out も自身が行うことで、参加型であること、事前学習も可能であること、などを自覚してもらうことを促した。さらに授業の4回が終わる毎に、次の授業の最初の10分間でミニテストを行い、理解度の確認を行う工夫をした。				
取り組みの効果	全員が配付資料を印刷し、事前学習の可能性を共有した。さらに15コマ中に合計2回のミニテストで、最低限の理解すべき内容の確認を共有した。				
今後の課題	記憶すべき内容の獲得は、高校まででも十分に習得できていると感じる。しかし社会で有用な管理栄養士として、社会人として活躍するためには、自身が独創的なアイデアを創出し、さらにプレゼンテーションや科学的エビデンスの確認作業など、大学で最低限獲得すべきことを授業内容に反映させる必要があると感じており、実現すべき具体的作業が必要であろう。				

授業形態	講義	科目名	給食経営管理論Ⅰ	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>授業の導入には、復習時間を設けている。前回の授業内容から問題を出題し、各自で解答を考えさせ、指名して答えさせている。次に模範解答を示しながら、前回実施した授業の要点について説明する。同時に、学生の理解度に応じて補足説明を行っている。さらに、ストーリーをその日に説明する授業内容につなげていく。また、各章が終了した時点で、国家試験の問題を例示し、学生に問題の解答を考えさせる。</p>				
取り組みの効果	<p>前回の授業内容から出題し、学生各自で解答を考えさせ、指名して答えさせる。前回、実施した授業に対する学生の理解度を測ることができ、習熟度に合わせた授業を展開することができる。前回、実施した授業内容を振り返ることにより、理解度を高めることが出来るうえ、その日の授業とのつながりがわかり、より理解度が上がると思われる。</p>				
今後の課題	<p>単なる知識の詰め込みにならないように、学生に対して科目内容に興味を持たせるような事例説明をすることを心がけて行きたいと思う。</p>				

授業形態	講義	科目名	給食経営管理論Ⅱ	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	各章が終わると国家試験過去問題を用いて確認授業を行い、学生に回答を求め理解度を確認し必要があれば再度講義を行っている。教科書に記されている内容が、実社会で役立てられるよう、また、次年度に開講される臨地実習(学外実習)で対応できるように、実際の給食部門収支を計算するなど演習も取り入れている。				
取り組みの効果	学生授業アンケートで、過去問を用いた確認授業はわかりにくかったところが、理解できたとの意見があった。実習施設より給食部門の収支に少し関心を持っているように伺えるとの意見もあった。				
今後の課題	クラス間で理解度にバラツキがあり、理解度が低い箇所の再講義を行うと、予定していた授業スケジュールとの違いがでてしまう。基本の授業内容は確保するが、クラスによって授業内容に違いが出る可能性がある。				

授業形態	講義	科目名	栄養教育論Ⅰ・Ⅱ	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取り組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取り組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取り組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を取り入れたか	<p>小テストを行っています。 講義の時間でも課題に取り組んでもらったり、実際に身体を動かしてもらうことも時々取り入れるようにしています。</p>				
取り組みの効果	<p>動きを取り入れると、学生も明るくなり、その後、少し発言量が増える印象があります。小テストを実施することによって、時間外での学習も増えている印象です。</p>				
今後の課題	<p>短食の2年生、大食の3年生でも栄養教育論の授業を担当致しております。すべて国家資格に関わる講義のため、教えるべき内容が決まっております。内容については変更、工夫の余地はあまりありません。講義でも実習でも、正直、成功したと思うことは今まで一度もありません。毎回授業の後は、落ち込んでおります。工夫したつもりでも、身体を動かすことによって発言も増えるとともに、リラックスしすぎておしゃべりも増える場合などがあります。</p>				

授業形態	講義	科目名	食品衛生学	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>学生の時間外学習を促す取り組みとして、ホームページを立ち上げ、教科書には掲載されていない最新情報の提供を行った。</p> <p>また、予習や復習を促す取り組みとして、講義で使用する配布資料やパワーポイントをホームページからダウンロードして利用できるようにした。</p>				
取り組みの効果	<p>ホームページによる最新情報の提供については、学生達が必要性を感じていないためか、著しい効果はなかった。</p> <p>一方、講義で使用する配布資料やパワーポイントについては、多くの学生が講義開始までに印刷しており、一定の効果はあったと考える。</p>				
今後の課題	<p>講義に使用するパワーポイントをダウンロードさせると、ノートを取らなくなってしまう。講義で使用するパワーポイントをそのまま公開するのではなく、穴埋め式の資料にするなど工夫をする必要があると考える。</p>				

授業形態	講義	科目名	応用栄養学 I	必選区分	必修
開講学科・学年	大食 2年		受講者数	約 40 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p><失敗例>パワーポイントを使用した進捗を多く取り入れた。今までは、板書しながら進めていたが、文字が読みやすいように、また時間の短縮の目的で取り入れた。</p>				
取り組みの効果	<p><失敗例>パワーポイントの文字数が多いと、逆に学習意欲を削いでしまう結果を招いた。時間がかかっても、板書しながらの説明のほうが理解しやすいこともあった。</p>				
今後の課題	<p><失敗例>文章が多い場合は、プリントにして、適宜補足できるように工夫する。その他、パワーポイントでの授業についての賛否を学生に問うた結果では、パワーポイントを使用した進め方はわかりやすいとの意見が得られたが、情報量が多いので工夫が必要である。</p>				

授業形態	講義	科目名	臨床医学 I	必選区分	必修
開講学科・学年	大食 2年		受講者数	約 40 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	①具体的な事例（患者さんなど）の紹介②ホワイトボードに図や絵を描いてわかりやすく説明する③プリントを配布し、補完的な資料を配布する④学生への問いかけや質問を必ず入れる⑤他の教科との関連性を指摘する⑥最初に予習の重要性を周知する⑥おしゃべりがあれば必ず指摘して外でやるように言う				
取り組みの効果	私語はなく、熱心に聞いている学生がほとんどである。				
今後の課題	4年間でどのような人材を育てるかという統括的な理念が必要。また、多様な人材を育成できる工夫。教科間の連携。研究者育成に向けた取り組みなど。				

授業形態	講義	科目名	公衆栄養学 I	必選区分	必修
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>学生の発言・質問あるいは教員とのディスカッションの頻度を増やすことを目的に、講義時間内に小グループ（5から6人程度）を作り、ある議題・課題に対して意見交換する時間を作成した。その後、作成されたグループ毎に意見を述べてもらった。</p>				
取り組みの効果	<p>意見がまとまるグループとまとまらないグループの差が顕著である。意見がまとまるグループは学生間の意見交換が活発であり、その後の授業への取り組み・意識の向上がみられる。一方で、意見がまとまらないグループは、議題・課題から逸脱した内容になり、その後の授業へのモチベーションの向上につながらない。また、反対に授業中の雑談が増加するなどの授業の進行に弊害を与えることも起きた。</p>				
今後の課題	<p>授業の時間のうちに、学生間でグループを作り、課題・議題に対して意見交換会を行うには、その予定を周知し、事前に課題を明示すること、課題周辺の問題点などについて説明することが必要であった。さらにはグループディスカッションを行うための事前準備（予習）および講義の復習などを促すことが必要であった。</p>				

授業形態	講義	科目名	生化学Ⅱ	必選区分	選択
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
<input type="checkbox"/> その他 ()					
どのような方法を取り入れたか	この事例は、最近の事例ではありません。5年ほど以前の事例です。上記科目は、管理栄養士ガイドラインのコア科目です。従って、しっかりと学んで修得してほしいと願っている科目の1つです。ところが、その年度の学生は、学習態度が悪く、私語も気になる程度あり、また、遅刻等も目立っていました。そこで、開始3回目当たりで座席指定を計画しました。勿論、前の座席でないと言書が見えにくい学生には、前での指定席を決めました。残りは、出席簿順に座席を指定して着席を求めました。ところが、丁度、10回目位で学習の意欲がかなり低下した状態になり、授業に対する集中力の低下が認められました。その理由は、座席指定で学習意欲が低下したということでした。				
取り組みの効果	つまり、学習意欲や関心を高める為に、座席指定をし、この方が私語が少なく、学習効果の向上に貢献できると期待しました。しかし、逆効果が認められました。むしろ、学習意欲の低下につながりました。そこで、元に戻して最後まで授業を行いました。この年度の修得状況は、あまり良いとは思われませんでした。授業環境の設定は、教員の力量ですが学生の言い分も十分に加味して取組む必要があると思いました。				
今後の課題	授業態度や集中力の維持は、教員の授業に対する取り組み方に関わっていると考えられます。Power pointを用いる、用いないなどの媒体ではなく、教員の学習に対する考え方や担当科目の学習アプローチが授業態度や集中力に大きく影響されると考えられます。従って、教員の教育力が重要と思います。				

授業形態	講義	科目名	環境科学	必選区分	選択
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	各授業テーマにふさわしいNHKエコチャンネルの動画を見せることにより、視覚的にその重要性を認識させる。				
取り組みの効果	映像の印象と授業での説明がよく記憶に残る。				
今後の課題	S館各教室にパソコンの設置がなく、インターネットケーブルもない教室があり、機材の運搬に苦渋するとともに機器設置に授業時間を奪われている。教室にはパソコンの設置が必要である。 持ち込みパソコンの設営に時間がかかり、授業予定量が減少し、内容の詳細量が犠牲になる。				

授業形態	講義	科目名	環境科学	必選区分	選択
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	毎回授業の始めに小テストをする。				
取り組みの効果	復習することにより知識の蓄積が起きている。				
今後の課題					

授業形態	講義	科目名	環境科学	必選区分	選択
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	プロジェクターを用いた授業により、学生の近い位置まで移動し、顔を見ながら内容を伝達し、質問をし、やりとりをする。				
取り組みの効果	学生に近い位置で講義し、質問することにより、緊張感と親近感を持ち内容を記憶に植え付けることが出来る。				
今後の課題					

授業形態	講義	科目名	臨床医学Ⅱ	必選区分	選択
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を 取り入れたか	<p>1 講義内容は疾病の病態、治療に関することなので、できるだけ、自験例を挙げて、細かく解説するようにしている。このことにより、より疾病を身近に感ずることができるのではないかと考えている。</p> <p>2 疾病の数は多岐にわたる。テキストは疾病ごとの縦の解説であるので、できるだけ、疾病の症候から横のつながりを思い起こさせ、適宜、質問を行う。この学習方法により、これまでの復習および病態を引き起こす機序について、さらに深く学ぶことができる。</p>				
取り組みの効果	<p>1 の方法は、学生は興味深く聞いており、これまでのアンケート結果からも、学習意欲を出させるために有益であると考えている。</p>				
今後の課題	<p>このような方法も、基礎的な知識がある学生には有用であるが、それが欠落している学生には、適宜、学習進度を確認する必要があると考えている。</p>				

授業形態	講義	科目名	臨床栄養学Ⅲ	必選区分	選択
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>臨床現場において栄養カルテの記載は不可欠であるが、講義を聞いただけでは書くことは難しく、症例を用いた演習を導入している。</p> <p>各項を学生が記載している間は、教室内をラウンドし、直接アドバイスを実施。カルテの記載方法は、3回に分け、各項（＃・S・O・A・P）は5名前後の学生に自分が考えた内容をホワイトボードに記入を依頼し、クラス全員で内容を共有。その後ディスカッション、解答を記載し、講評を実施。</p>				
取り組みの効果	<p>学生は実際に栄養カルテを書くことで、具体的に何をどう書くべきかを知り、また何が理解できていないか（理解しづらかったか）、勘違いしやすいことなどの問題点が明確化できる。</p> <p>大勢の中では手を挙げるができない学生は、ラウンドを実施することで質問がしやすくなり、理解力の向上に繋がる。</p>				
今後の課題	<p>演習の導入は、要する時間が長くなり、別の講義範囲での時間短縮が生じる。考える時間を短縮するためのいくつかの項目は、宿題とする。または、ディスカッションの時間を半減するなどの工夫を要する。</p> <p>明確化した問題点は、今後の授業に活かすことで演習の効率化を図っていきたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	栄養疫学	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	各授業テーマにふさわしいNHKエコチャンネルの動画を見せることにより、視覚的にその重要性を認識させる。				
取り組みの効果	映像の印象と授業での説明がよく記憶に残る。				
今後の課題	S館各教室にパソコンの設置がなく、インターネットケーブルもない教室があり、機材の運搬に苦渋するとともに機器設置に授業時間を奪われている。教室にはパソコンの設置が必要である。				

授業形態	演習	科目名	ヘルスプロモーション演習 (管理栄養総合演習)	必選区分	必修
開講学科・学年	大食 4年		受講者数	約 50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>体組成、体力、生活習慣等で修正すべき自己課題を抽出させ、当事者意識を持たせませす。課題の内容が似ている者でグループ（8～10名で構成）を作った後、同じグループ内で学生達は共通の目標を設定し、共に語り励まし合いながら行動変容にチャレンジしていきます。目標達成のため、行動科学やPDCAサイクル等の手法を用い、色々と苦勞しながらも工夫して自分たちの問題を解決する能力を高め、さらに問題や疑問について自分で調べ勉強する態度及び自分の考えを他人に伝える能力を強化していきます。（詳しくはFDニュース第11号参照）</p>				
取組みの効果	<p>この演習の良いところ（強化されること）を、以下、列挙します。①自己の行動の課題解決に向けて真摯に取り組む。②論理的判断、計画性、進捗管理の重要性を理解する。③実現可能な目標を設定する。④短・中期的に成果をあげるため集中力を高める。⑤グループで協力し合うことの効果（グループダイナミクス）を実感する。⑥うまくいかない場合に改善策を考える。⑦精度の高い評価の必要性とその方法を理解する。⑧様々な断片的な知識を総動員して考える。⑨信頼できる情報を納得いくまで調べる。⑩やる気を維持する工夫をする。⑪他者（例えば、患者）の行動変容に関して共感的態度がとれる。⑫健康意識と自己効力が高まる。</p>				
今後の課題	<p>この演習に止まらず、社会で直面する様々な課題に取り組むためのライフスキルとして、発展・成長させるようなフォローアップ演習（システム）ができればと思う。</p>				

授業形態	演習	科目名	国際栄養学演習事前演習	必選区分	選択（特別教育科目）
開講学科・学年	大食2・4年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他（ ）				
どのような方法を取り入れたか	<p>本演習は食物栄養学科が実施している夏期留学プログラムである国際栄養学演習参加者を対象に、前学期中に実施している事前演習である。このような科目目的のため、留学前に欧米式の授業形式に慣れさせる目的で、日本語と英語を用いた双方向式の授業を出来る限り取り入れようとしている。また、図書館のアクティブラーニングスタジオを利用し、机の配置もセミナー型ではなく、アイランド型に配置するなど、学生がより発言し易いような工夫を行っている。</p>				
取組みの効果	<p>参加学生は英語会話の発声練習などで、これまでの座学式授業と比べて積極的に発言する学生が出て来たと思われる。</p>				
今後の課題	<p>この演習は開始して間もない実験的授業であり、かなり苦勞しながら授業を進めている段階である。特に、科目担当者がネイティブスピーカーより、正確な発音などの授業アシストが受けられるならば、目的達成にとって大変プラスになると考えられる。</p>				

授業形態	実験	科目名	基礎化学実験	必選区分	必修
開講学科・学年	大食1年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>レポート作成において、見やすく、読みやすい報告文をどのように書くのかを理解、体験するために、「手書き」レポートのみを提出方法に指定。 怪我等で手書きできない場合は、別途対応。</p>				
取り組みの効果	<p>ワープロによる場合と異なり、コピー、ペーストがほぼなく、引用する参考書等も必ず読むことが必要であり、安易な検索サイトのみによらないレポート提出が多い傾向である。 漢字の間違ひも減少傾向であり、報告文として「読む側」の視点にも気をつけるようになった。 余白の取り方など、PCでは自動設定であるが、各自で見やすいレポートの作成を意識するようになった。</p>				
今後の課題	<p>大学入学後、初めてのレポート指導科目であり、校正記号によるレポート添削の意味がわからない学生が多く、記号説明の必要がある。 他学科教員または共通教育非常勤講師において、ワープロ作成のレポートが当然という教員がおられ、指導学生に対して反する助言をされたことがあった。この点は今後、専門教育の一つの立場としての指導であることの理解を促す必要がある。</p>				

授業形態	実験	科目名	基礎栄養学実験	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	実験室がマルチメディア化していることを十分に利用した。すなわち、実験書による説明に加え、①実験計画をスキーム化し、画面にて提示した。②実験手技を画面写真で説明し、実際の流れや動きを示した。③各班で得られた実験データを画面に表示させ、互いのデータの比較を可能にし、これにより考察の深化を図った。				
取り組みの効果	栄養学に関する事象を検証するための実験について、目的、方法、結果、考察の流れを実感させるのに有効であった。特に、エビデンスを得るための方法が正しく行われることの重要性を認識させ得た。				
今後の課題	実験データのまとめ方、特に図示の方法などをマルチメディアを用いて解りやすく解説することも必要であろう。				

授業形態	実験	科目名	生化学実験	必選区分	必修
開講学科・学年	大食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>実験実習では、各クラスの番号順での席順で班を作成し共同で実験をする体系を取っていることが多いようだ。この状況では固定されたメンバーにより、信頼関係の構築等は充実できるが、実験への参加やメンバーとの連携や班の統括など上手く発揮できる状況を全員が得ることが難しくなることもあると考えられた。このことより、実験実習途中で班編成を大きく変化させ上記の事項等に関して、学生の動向を観察することにした。また学生の勝手な行動や私語を改善するためにもメンバーを交換することで改善するかどうかについても調査することを目的とした。</p>				
取り組みの効果	<p>班編成を大きく変化させることで、私語や勝手な行動は大幅に減少し実験実習の円滑な進行が可能となった。またメンバー編成により、それまで積極的な参加をしていなかった学生やメンバーとの連携に戸惑っていた学生の良好な関係構築や実験への積極的参加が観察されるようになった。特に班を統括できる人材の発見にも成功し、意欲的なレポートの作成等も見受けられるようになった。</p>				
今後の課題	<p>良好な点も多く見受けられるが、反対に上手く参加できなくなっている学生もいるのではないかとと思われる。現時点ではそのような学生の有無を調査している段階である。また同関連講義である生化学の深い理解のために、当実験実習がその補助にならないのかについても検討中である。</p>				

授業形態	実験	科目名	食品加工学実験	必選区分	選択
開講学科・学年	大食 1年		受講者数	約 40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他（レポートを提出させる取組み）			
どのような方法を 取り入れたか	<p>実験実習科目ではレポートの提出が不可欠である。しかし、レポートの提出を怠る学生もいた。このような状況を改善し、受講生全員（220名程）に毎回のレポートを1回も欠かすことなく提出させ（全部で8回のレポート提出がある）、さらに学生が自ら“自学自習”の大切さに気づき、レポート作成に対する意欲を高めさせることに成功した実施例である。</p> <p>対策法として、「すべてのレポートを提出した場合のみ評価する。」とした。しかし、実施する前は一大決心が必要であった。もしも8回のレポート提出のうち1回でもレポートを提出しなかった場合は、レポート点（80点満点）がないため、授業を全回数出席した場合であっても合計点数は20点以下となり単位が修得できない可能性が考えられたからである。結果的には、受講生全員（220名程）が全回分のレポートを提出した。</p> <p>本事例は「すべてのレポートを提出した場合のみ評価する。」ということを実行したことから始まったが、予想外に学生の意欲を高めさせることができた画期的な事例だと思った。レポートの未提出という問題を解消するために、積極的にレポートに立ち向かった学生と教員によって生まれた成果である。</p>				
取組みの効果	<p>学生がより意欲的にレポートを作成するようになった。毎回、提出されるレポートを一人当たり平均15分をかけてチェックし、コメントを書き、総評として、毎回、“Very good”、“Good”、“Normal”とランクをつけて評価したが、回数を重ねるにつれ、質的に高いレポートになっていき、新たに“Very very very good”という評価を設けた。なお、点数的には“Very good”と“Very very very good”は同じであるが、レポートとして良くできていることを評価するために付け加えた。そして、毎回、非常に良いと判断されたレポートについて、受講生全員に結果のまとめ方や考察を紹介し、模範的な書き方を常に意識させた。学生たちはレポートの書き方もわかり、レポートを書くために積極的に図書館等で調べ、考え、まとめるようになった。</p>				
今後の課題	<p>他の授業をはじめ多くの業務もあり、さらに毎回のレポートを採点するため、睡眠2時間という日々を授業が実施される後期の半年間続けることになったが、達成感があった。成果を生み出した秘めたる要因は、学生を単なる受講生として考えるのではなく、“特別な存在”として感じることができるようになったからだと思う。おそらくは、担任として管理栄養士国家試験対策や就職問題などについて学生と共に悩み、問題を解決していく中で芽生えた学生に対する“思い”があったからだと思う。必要なのは、“目の前にいる学生をどのように育てればうまくいくのか”をよく考えて、“行動する”ことだと思う。あとは、“頑張る”ことだと思う。</p>				

授業形態	実習	科目名	栄養教育論実習Ⅱ	必選区分	必修
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>栄養教育論実習では、1対1の場合でも集団を対象とした場合でも栄養教育を実施する心構えは同じあることを理解させる。その1つが、実習時間内に決められた時間内に課題を完成させる。その理由は、3年、4年になると臨地実習に行くことになるが、実習先では、決められた時間内に課題を提出することを求められることが多く、一例を挙げると15分でスピーチ原稿を仕上げる。何分で課題を計画通りに仕上げていくことを学ばせる。臨地実習先で、求められる内容を実習の中に取り入れている。</p>				
取り組みの効果	<p>学生たちは、最初は無理だとかできない等と一応言いますが、慣れてくれば決められた時間内に課題をこなしていきます。武庫川女子大学の学生は栄養教育媒体の作成および作品は、他の大学の実習生と比較するとすばらしいとよく言われます。</p>				
今後の課題	<p>ゆとり教育の学生なので、中には実習のスピードについていけない学生の対応が必要である。</p>				

授業形態	実習	科目名	臨床学実習	必選区分	選択
開講学科・学年	大食3年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	<p>①具体的な事例（患者さんなど）を基にした小グループワークにより、課題抽出能力や時間内にまとめる能力やコミュニケーション能力の向上を図っている。</p> <p>②事前課題を与えて自己学習能力の向上を図っている。</p> <p>③学生が司会、書記を担当し、個人発表（プレゼンテーション）と質疑応答により、自律性や積極性の向上を図っている。</p> <p>④自己評価や学生間の評価を取り入れて、客観性や傾聴力の向上を図っている。</p> <p>⑤全体発表では質問者を指定して、質問力の向上を図っている。</p> <p>⑥チューターによる評価を導入し、モチベーションの向上を図っている。</p>				
取り組みの効果	<p>症例を通じた自己学習やグループワークにより、それぞれの疾患に関する病態の理解が深まっている。プレゼンテーション、コミュニケーション、問題抽出、質問など回を重ねるごとに成長が見て取れる。</p>				
今後の課題	<p>4年間でどのような人材を育てるかという統括的な理念が必要。また、多様な人材を育成できる工夫。教科間の連携。研究者育成に向けた取り組みなど。</p>				

授業形態	講義	科目名	食品素材学	必選区分	必修
開講学科・学年	短食 1年		受講者数	約 80 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>理解を深めるために、実物を実際に手にとって観察させた。また学習を促す為に以下の様な取り組みを行った。</p> <p>学生の従属的予習、従属的復習の習慣ができるように、A4用紙に食品1つに6項目のまとめ要項欄を横並びに作成し、縦の並びに60行の自主学習表を作成した。その表が一杯になれば、新しい表を渡すと同時に完成させた学生氏名を名票に記録し管理した。</p> <p>表に付加価値として、定期試験で、ある点以上獲得すれば、1枚5点にすると、学生に授業の開始時に宣告した。ある点以下であると何枚出しても点は無く0点である。再試験にはこのルールは適応しない。また、提出枚数は何枚でも良いとした。3枚提出した学生が70点獲得した場合、3枚の15点が加算され、本来はB評価であるところが、85点になりA評価になると説明した。一方、学生が自習まとめ表を用いて、どのように学習すれば良いかも教えた。その結果学生達は、1枚5点が良く効き、クラスによる差はあるが、0枚～8枚程度出してきた。</p>				
取り組みの効果	<p>実物を回して観察するのに時間がかかることと、観察による個人の感想的私語が増えた所が失敗であるが、興味は持ってくれたと感じる。</p> <p>1年生であるためか、自主学習表に関して半信半疑状態の学生達であるが、授業も残すところ1/3近くになると、友人達の表の完成、提出状況を見て表を授業中の時間も上手に利用して提出者が増えてくるという効果が表れているようだ。定期試験の結果が楽しみである。学習態度も良くなった。</p>				
今後の課題	<p>2クラス合併なので、1クラス単位であると実物もすみやかに回せるが、教員の負担や教室の手配等が難しい。</p> <p>自主学習表に予習部分、授業中での書き込み部分、復習部分を明確にできる工夫をすることを課題としている。</p>				

授業形態	講義	科目名	臨床栄養学概論	必選区分	選択
開講学科・学年	短食1年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法を取り入れたか	臨床現場の経験を話し、管理栄養士の仕事を知ってもらうことを目標とした。厨房の仕事や病院の栄養士がどんな仕事をしているのかを書画や経験談を交えながら説明した。また、身体測定で使用する器具や実際に提供している食事形態、現場で使っている栄養剤のサンプル等を見せ、測定方法やどんな時に用いるのかを説明した。教科書の補足としてプリントを配布し、体格指数の計算や24時間思い出し法で食事記録法を行う等、参加型の授業を目指した。				
取り組みの効果	授業アンケートで、現場の話が聞けて良かったというコメントがあった。				
今後の課題	授業アンケートにて配布資料が多い、プリントと教科書のいきぎが多いというコメントがあった。そのため、配布資料は1枚にまとめることにする。授業は昨年度が初めてであったため、わかりやすく説明するのが難しいと感じた。FD冊子や先生方の授業を参考にし、わかりやすく、かつ参加型の授業を目指す。				

授業形態	講義	科目名	解剖生理学Ⅱ	必選区分	選択
開講学科・学年	短食2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取り組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取り組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を取り入れたか	<p>栄養士資格に必要な臨床医学全般の講義であるが、栄養士、管理栄養士にとって、関わりの深い疾患である生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症など）は、イラストを豊富に用いたパワーポイントで説明することにより、理解しやすいようにした。最近、自分の病名を公表する有名人が多いため、各疾患を印象づけ、興味を持たせるために、そのような話題を取り上げることで、記憶に残るようにしている。また、実際の医療現場で、どのような治療が行われているかを具体的に説明することで、より身近に疾患を理解できるようにした。</p>				
取り組みの効果	<p>上記のようなことを実践することで、いろいろな疾患に対して、興味を持ち、学んでいる姿勢を感じている。</p>				
今後の課題	<p>疾患に対しては、身近に感じられることが多いものの、基礎的な部分である人体の構造や機能生理に関しては、興味を持ちにくく、今後の課題である。</p>				

授業形態	講義	科目名	食品加工学	必選区分	選択
開講学科・学年	短食 2年		受講者数	約 40 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ()			
どのような方法を 取り入れたか	<p>加工学の実習実験が無いので、加工技術の提示実験風体験学習として、強力粉と薄力粉の違いによる加工品の違い（パン、カステラ）を風船ガムを利用して体験させた。また、MA 貯蔵をポリ袋とアンモニア水を用いて、体験させた。一方、1年生の食品学実験で実施した内容を思い出させて、油の抽出方法をしっかり思い出させて、理解させた。</p> <p>同時に、学生の従属的予習、従属的復習の習慣ができるように、A4 用紙に加工技術や加工食品の1つに関して4項目のまとめ要項欄を横並びに作成し、縦の並びに30行の自主学習表を作成した。その表が一杯になれば、新しい表を渡すと同時に完成させた学生氏名を名票に記録し管理した。</p> <p>表に付加価値として、定期試験で、ある点以上獲得すれば、1枚5点にすると、学生に授業の開始時に宣告した。ある点以下であると何枚出しても点は無く0点である。再試験にはこのルールは適応しない。また、提出枚数は何枚でも良いとした。学生達は自主学習を積極的に実行している。</p>				
取組みの効果	<p>体験学習により、パンの膨らみ方とカステラの膨らみ方の違い、またポリエチレンフィルムによる空気組成変化が生じる仕組み等もしっかり理解できたようだ。</p> <p>自主学習表の作成に関しては、1年生の経験が物を言い、多くの学生が、授業開始時から積極的にまとめの表を作成し始め、良い効果が表れていると感じている。学生に聞くと、あとちょっとの所で、1枚5点にならなかったのが今回はそうならないように頑張っていると答えた。試験の結果が楽しみである。</p>				
今後の課題	<p>本や、小説を読みにくくなっている学生には、想像力も不足し、アルバイトに夢になっているので提示実験での体験学習は学習効果を大に上げる。しかし、加熱提示実験ができないので加熱提示実験を簡単にできる工夫をするのが課題である。</p> <p>自主学習表の作成では、予習部分、授業中での書き込み部分、復習部分を明確にできる表を工夫することを課題としている。</p>				

授業形態	講義	科目名	人の行動と心理 I (前任校科目)	必選区分	必修
開講学科・学年	医学科 1 年		受講者数	約 110 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
どのような方法 を取り入れたか	講義は、板書やパワーポイントファイルをモニターに投影しながら行っているが、その講義中、学生達の関心を高めるために、動画を多く入れたり、ビデオを再生するようにしている。				
取り組みの効果	言葉だけではうまく伝わらない内容なども、動画を差し入れることにより、学生の興味をためるとともに、より理解度が増した。				
今後の課題	動画やビデオは、上述のように、学生の注意を引いたり、講義内容の理解度を高めるには、非常によいツールであるが、必要以上に入れすぎると、かえって逆効果になることもある。つまり、口頭で充分つたわる内容に対して動画を入れると、冗長となってしまう学生の興味を減退させることになる。したがって、内容に依存するが、適度な割合で動画を入れることがよいと思われる。				